

郡山市セーフコミュニティ推進協議会

交通安全対策委員会 活動報告



報告者 委員長 安部 賢児

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

交通安全対策委員会設置の背景

外因による死亡者数 2009～2015年の死者数を合計

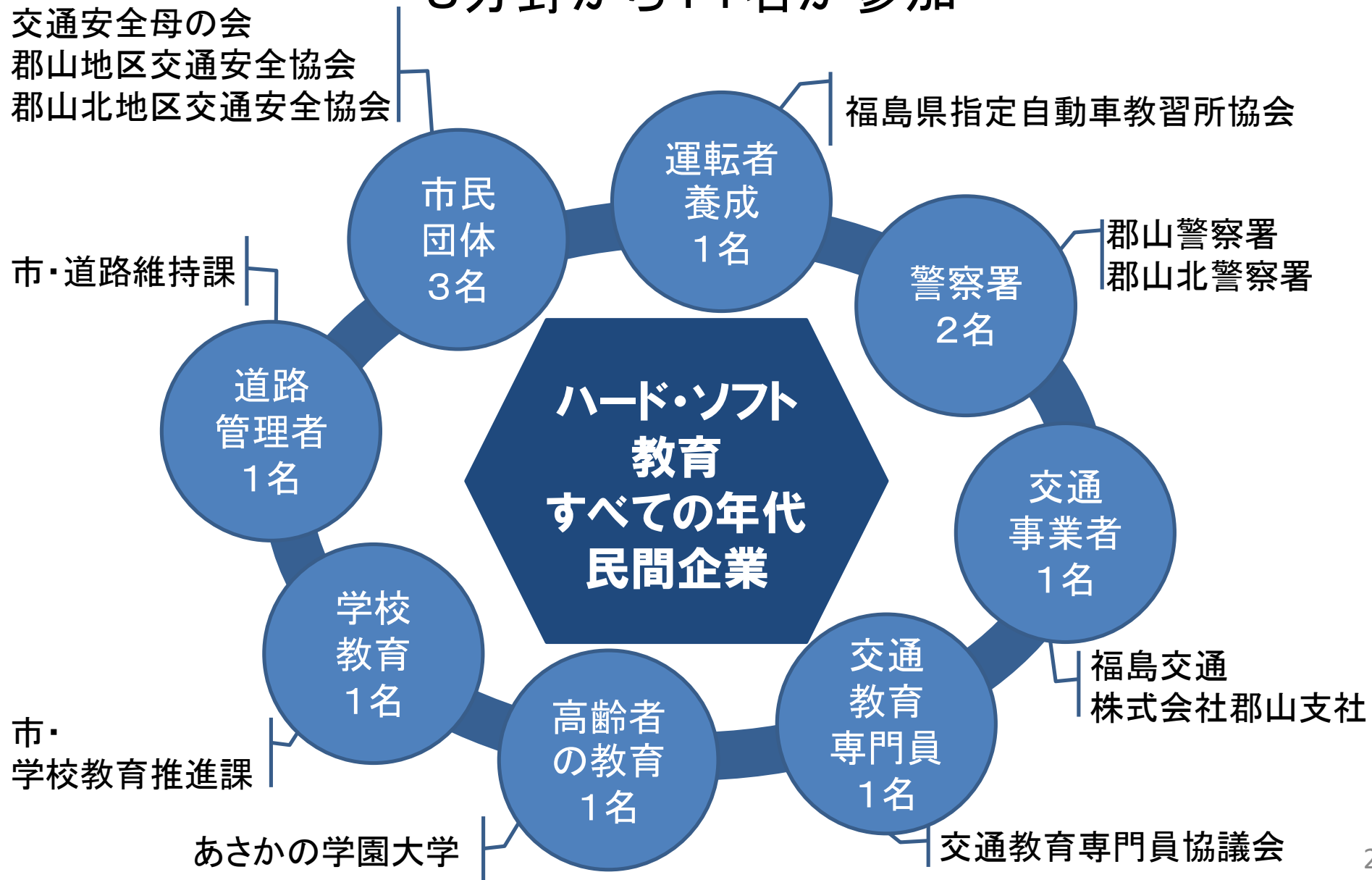
図1

年齢層	1位		2位		3位	
0-9歳	窒息	3人	交通事故	2人	転倒・転落	1人
			溺死・溺水	2人		
10-19歳	自殺	10人	交通事故	4人		
20-29歳	自殺	70人	交通事故	7人		
30-39歳	自殺	70人	交通事故	9人		
40-49歳	自殺	92人	交通事故	17人	窒息	5人
50-59歳	自殺	106人	交通事故	18人	溺死・溺水	9人
60-69歳	自殺	78人	交通事故	21人	窒息	16人
70-79歳	自殺	47人	窒息	35人	交通事故	32人
80-89歳	窒息	96人	転倒・転落	39人	溺死・溺水	33人
					自殺	33人
90歳以上	窒息	46人	転倒・転落	19人	溺死・溺水	7人
合計	自殺	511人	窒息	212人	交通事故	132人

交通事故による死者は、幅広い年代で2位

交通安全対策委員会の構成

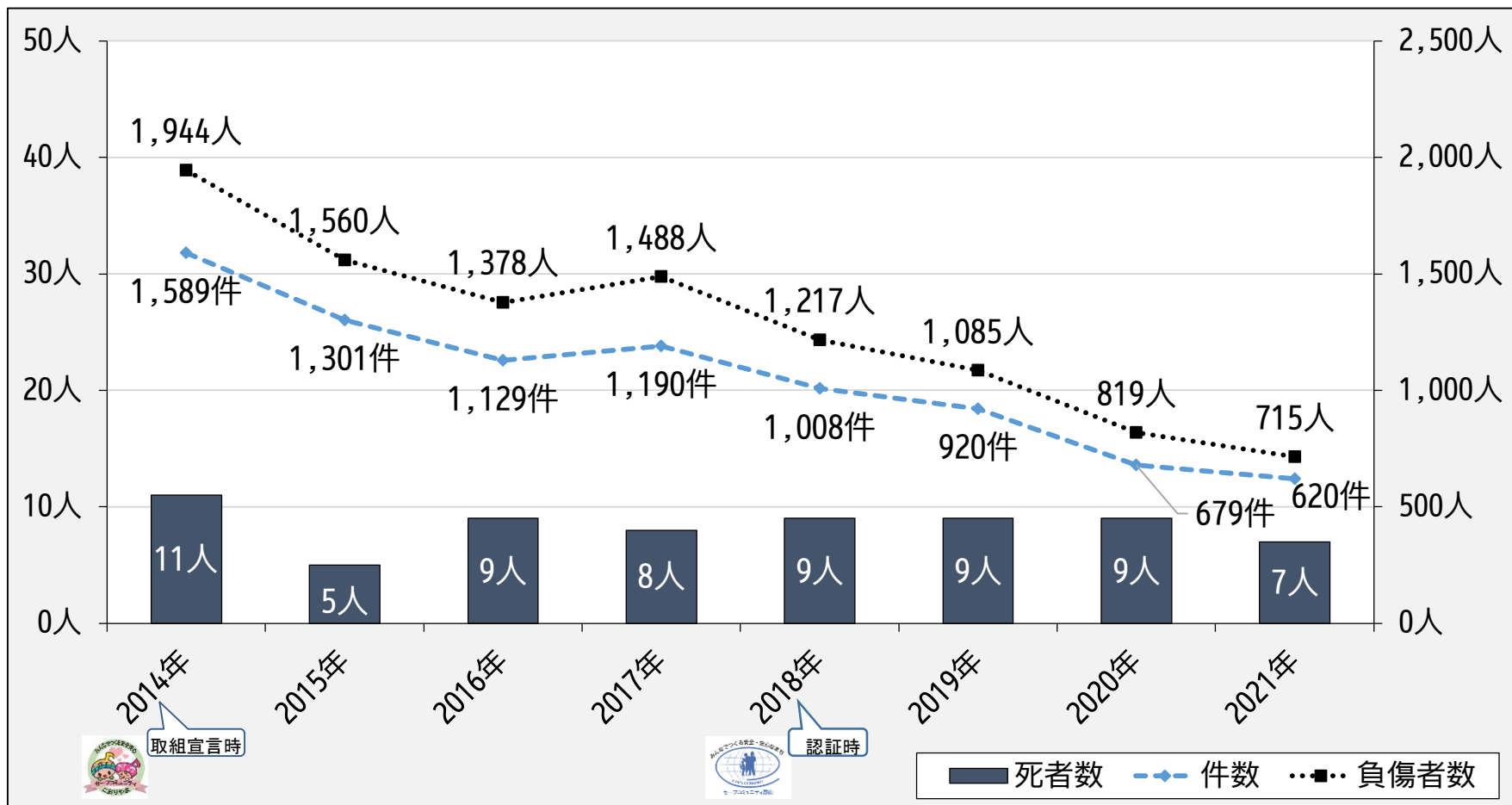
8分野から11名が参加



データからみた課題の抽出①

郡山市の交通事故（人身事故）発生状況の推移

図2



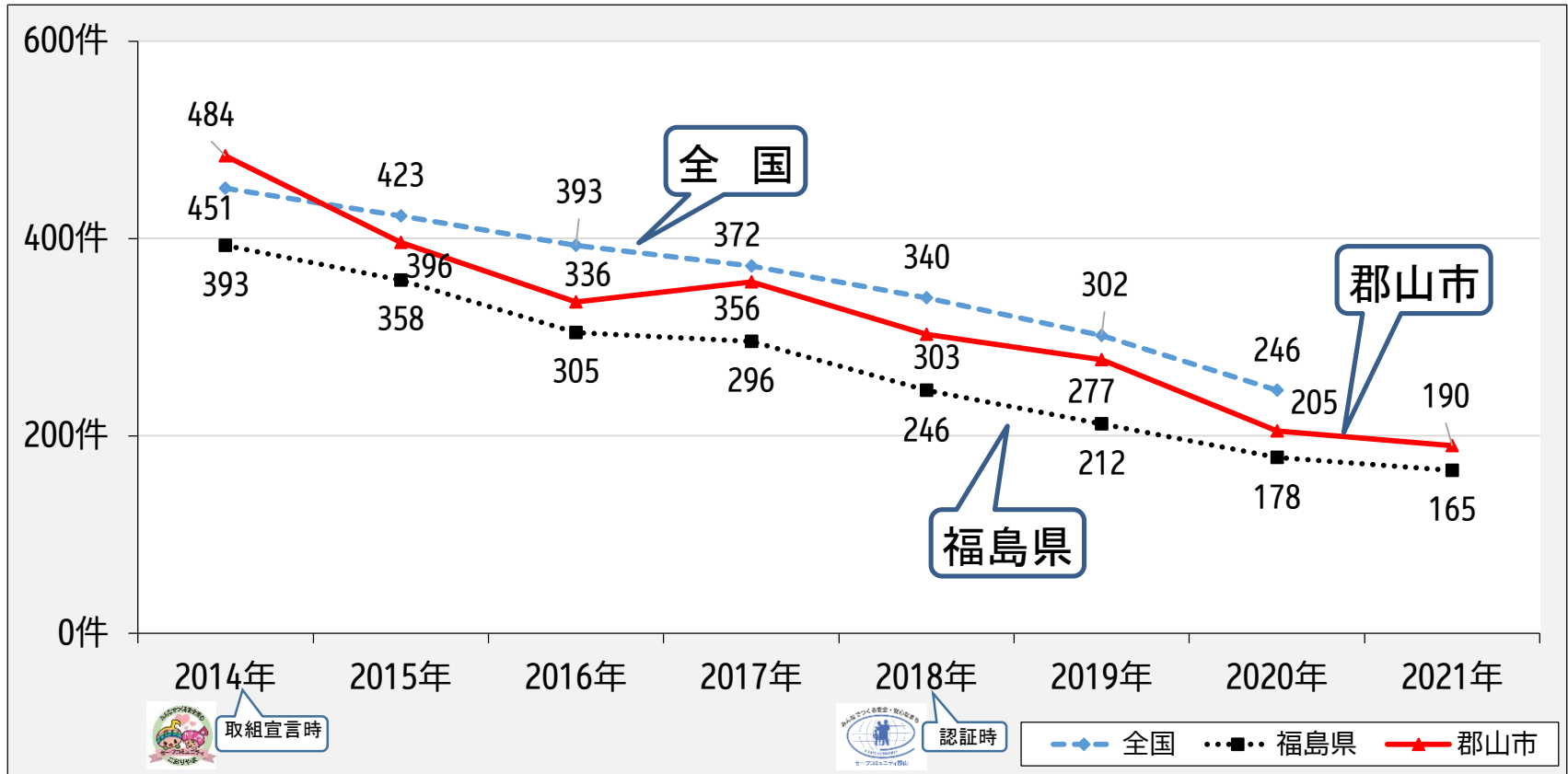
福島県警察本部「交通白書」「交通事故のあらまし」より

郡山市の交通事故は、減少傾向にあり、2014年の1,589件から2021年には620件となり、この7年間で約61%減少しています。

データからみた課題の抽出② 全国や県との比較

人口10万人あたりの交通事故件数（人身事故）の推移

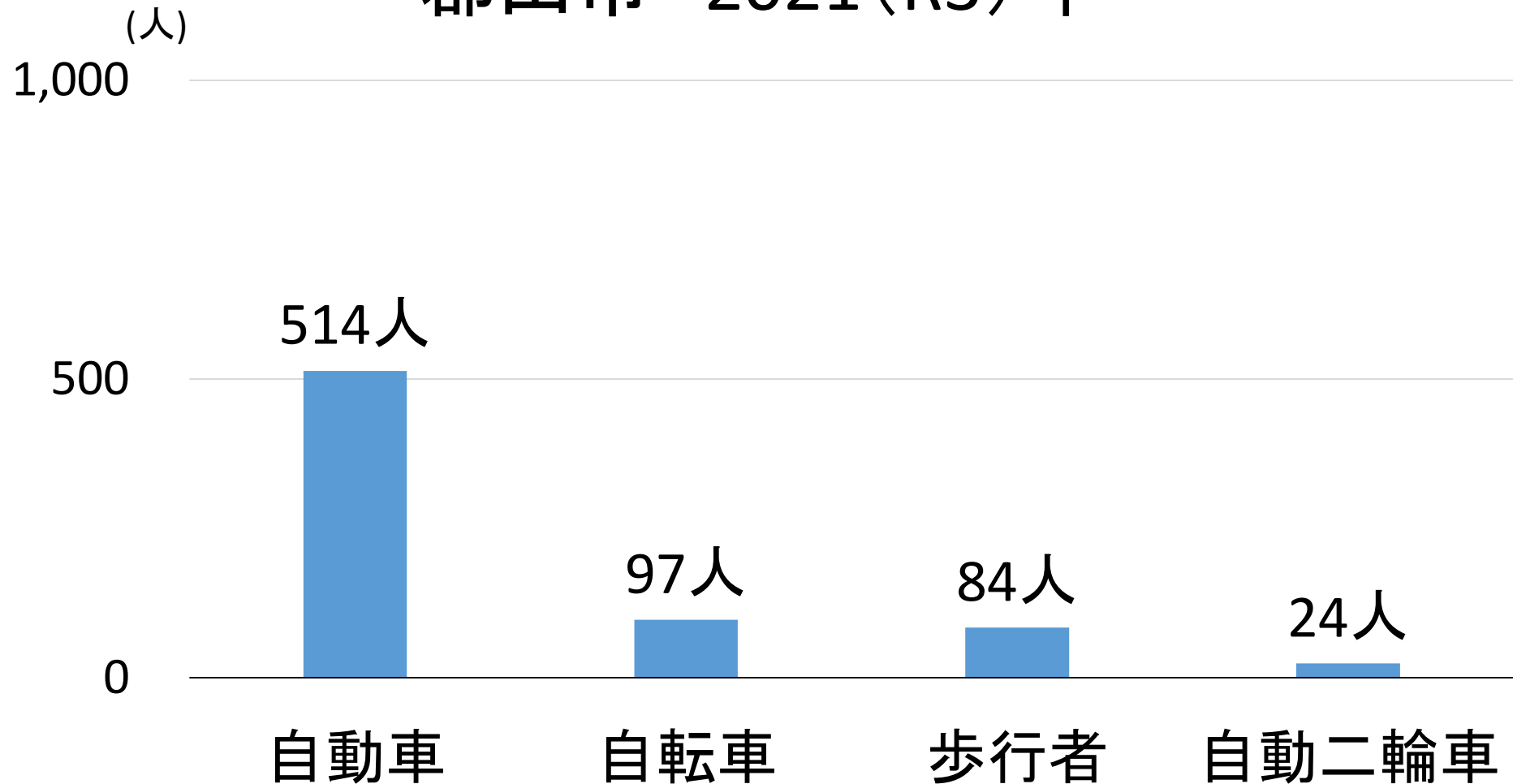
図3



警察庁「警察白書」、福島県警察本部「交通白書」「交通事故のあらまし」より

郡山市は、2014年までは全国及び福島県よりも多い状況でしたが、2015年に全国を下回り、減少傾向が続いています。

郡山市 2021(R3)年



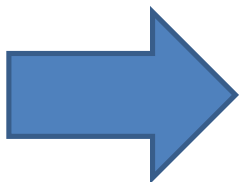
データからみた課題の抽出④ 郡山市の交通事故の特徴

図5

No	特徴	郡山警察署管内	福島県
1	交差点内 の事故の割合	58.8%	55.2%
2	青年運転者 による事故の割合	13.7%	12.6%
3	自転車 の事故の割合	15.7%	8.9%
4	夜間の事故 の割合	29.8%	25.5%
5	出会い頭 の事故の割合	37.0%	28.0%

出典：警察庁、郡山警察署「交通白書」2021年中の交通事故の特徴

5つの特徴



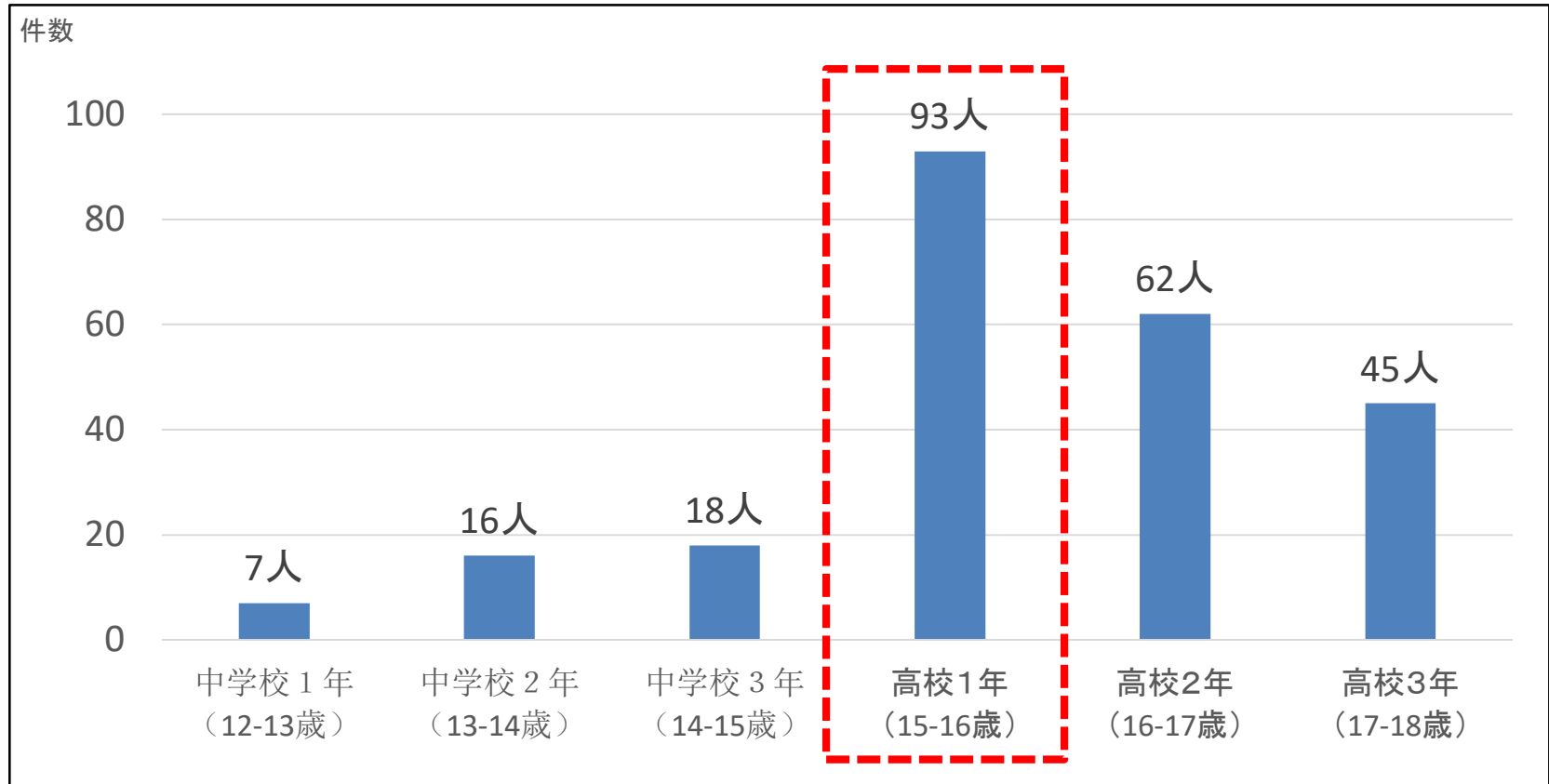
自転車事故
交差点内の事故 に着目

データからみた課題の抽出⑤ 自転車事故の多い年代（郡山市）

中学生から高校生までの発生件数

2017(H29)/1/1から2021(R3)/12/31の累計

図6



出典 郡山警察署「交通事故発生状況(自転車関連)」

高校 1 年生で大きく増加し、徐々に減少

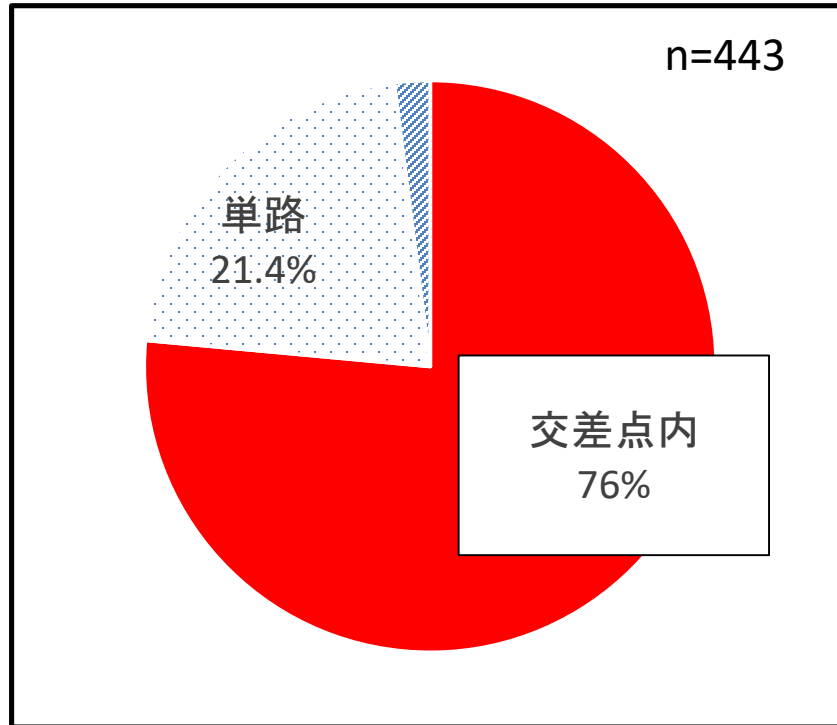
郡山市の通学手段の特徴 中学校 → 徒歩が多い

高 校 → 自転車が多い

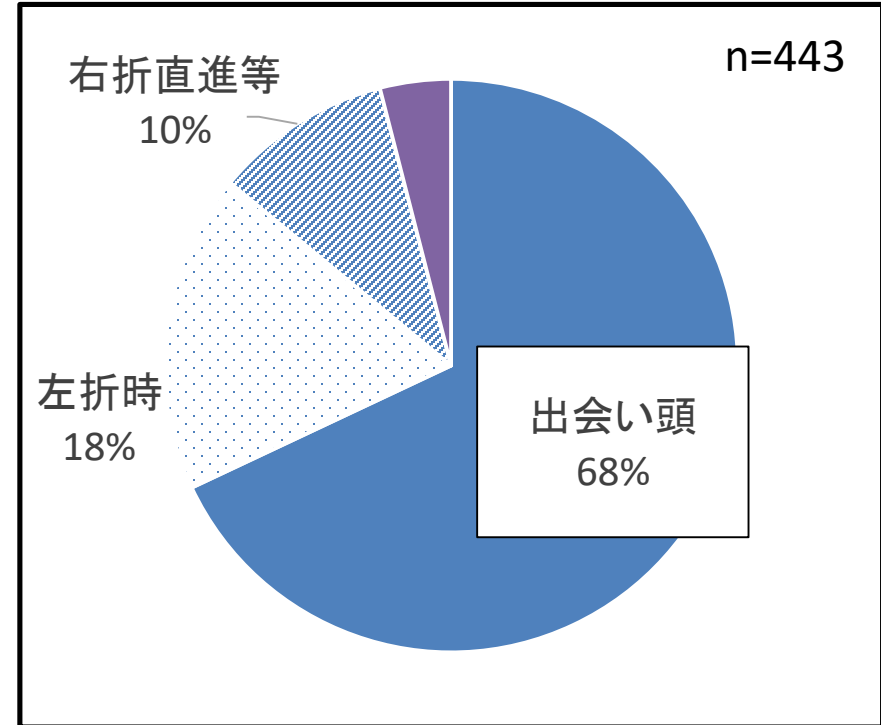
データからみた課題の抽出⑥ 中学生から高校生の 自転車事故の特徴（郡山市）

図7

道路形状別の自転車事故発生割合



事故類型別の自転車事故発生割合



出典 郡山警察署「中学生から高校生までの自転車事故」 2014(H26)/1/1から2021(R3)/12/31の累計

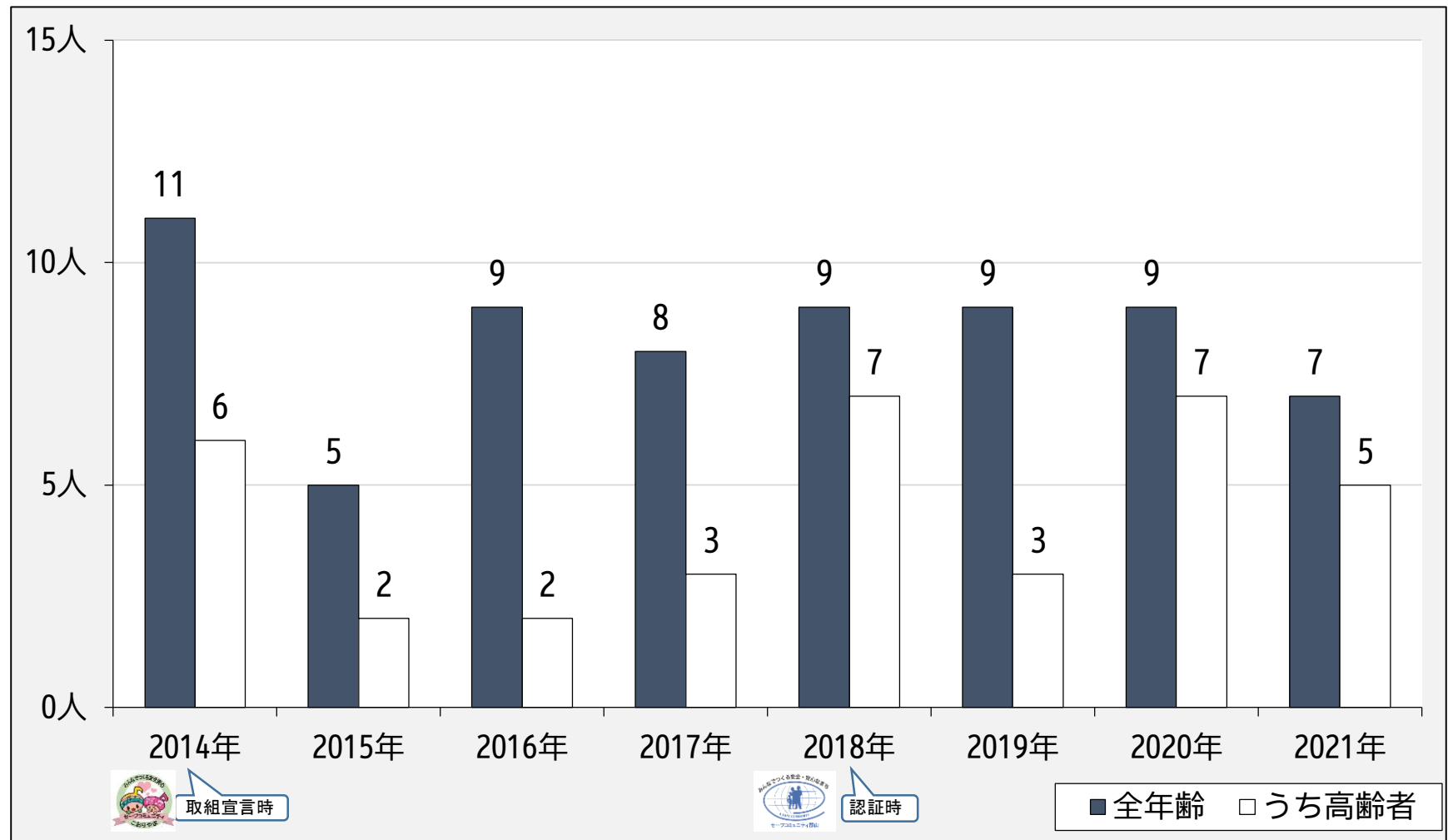
交差点内の事故が多い

出会い頭の事故が多い

データからみた課題の抽出⑦ 交通事故死者数の推移（郡山市）

交通事故死者数の約半数が高齢者

図8

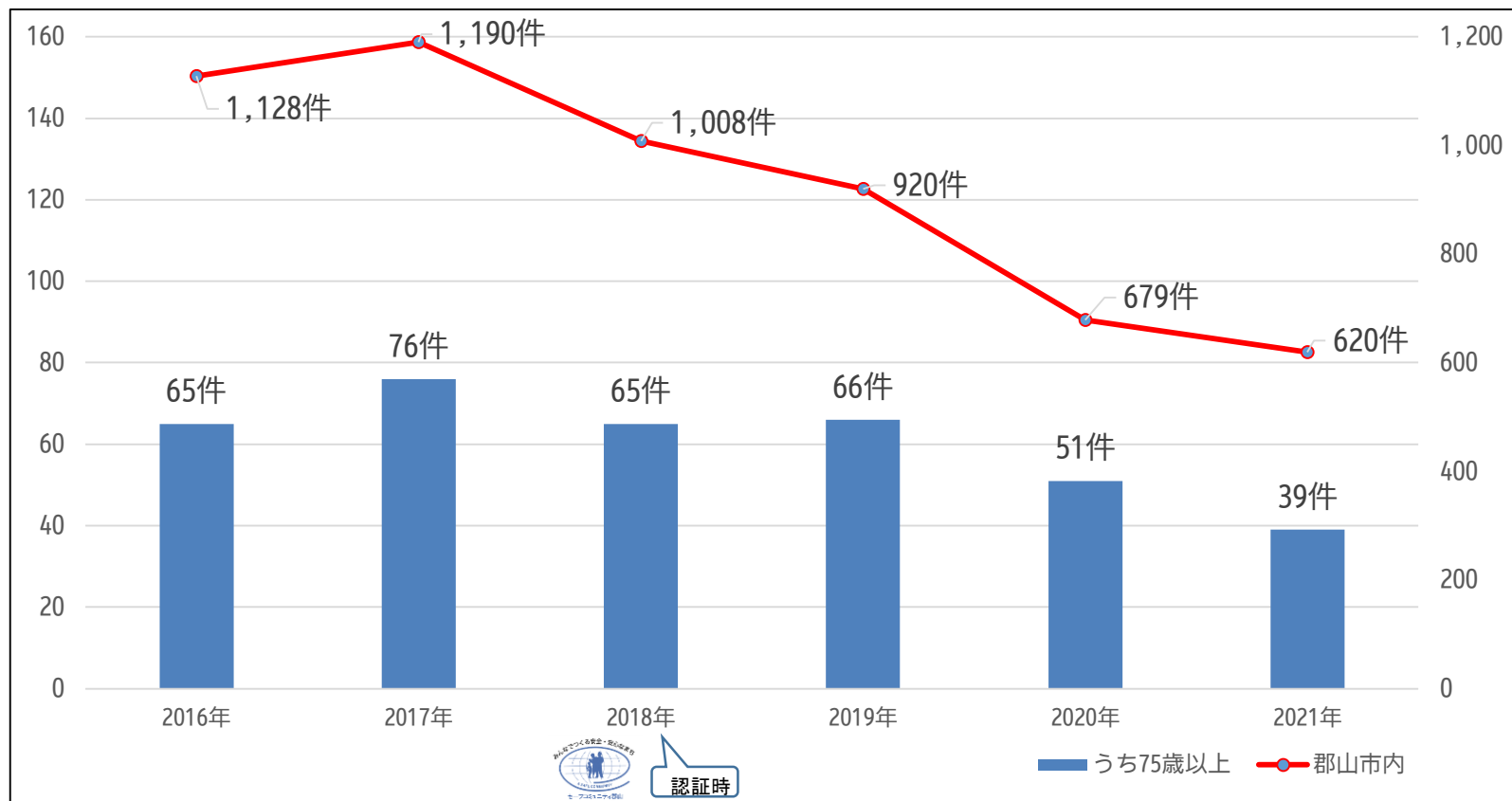


福島県警察本部「交通白書」「交通事故のあらまし」より

データからみた課題の抽出⑧

図9

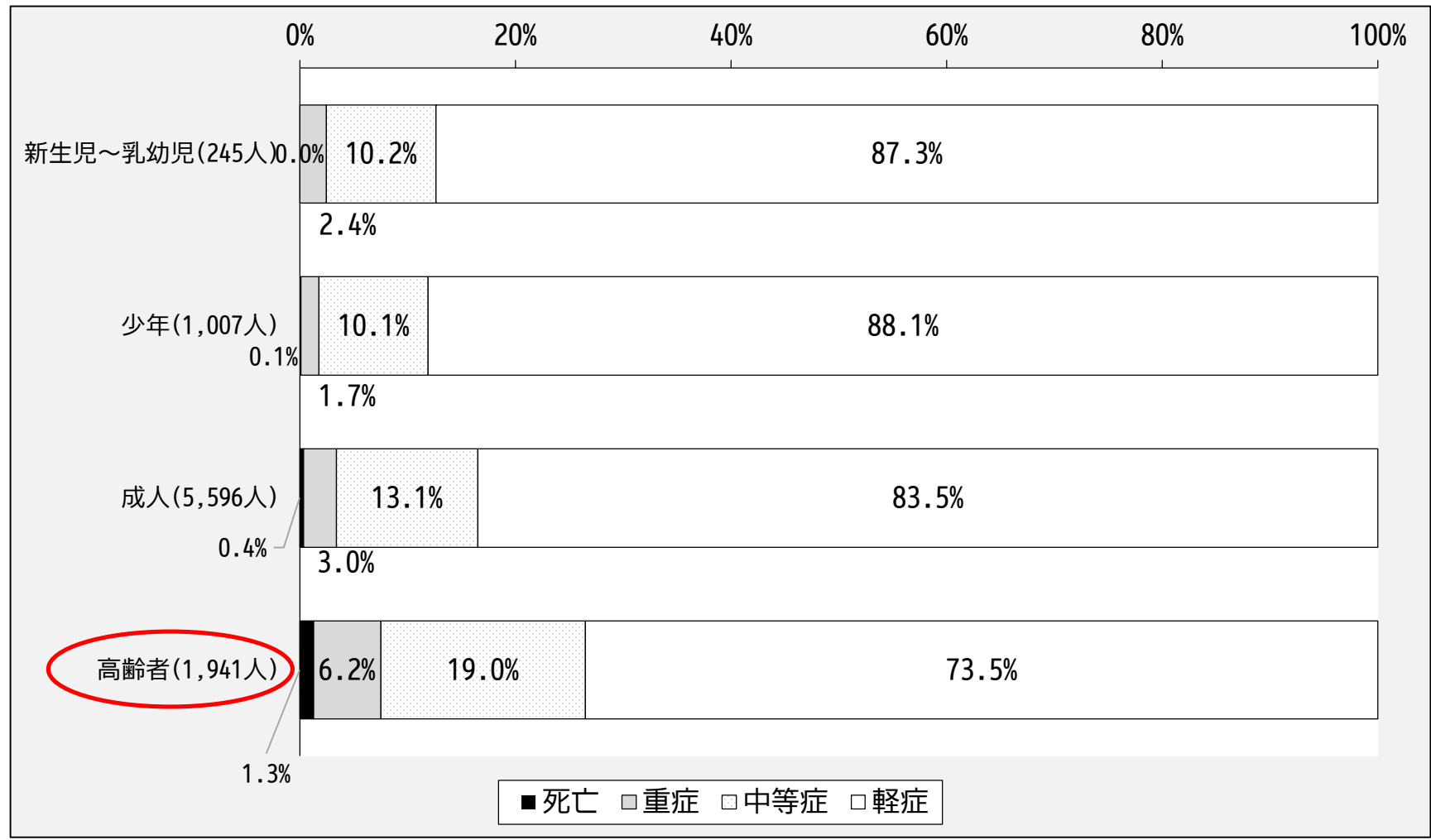
郡山市の交通事故（人身事故）のうち高齢運転者（75歳以上）の交通事故発生状況の推移



郡山市内の交通事故のうち、高齢運転者による事故件数の割合は約6%～7%で推移している状況である。

データからみた課題の抽出⑨

郡山市の交通事故による救急搬送の世代別重症度 図10

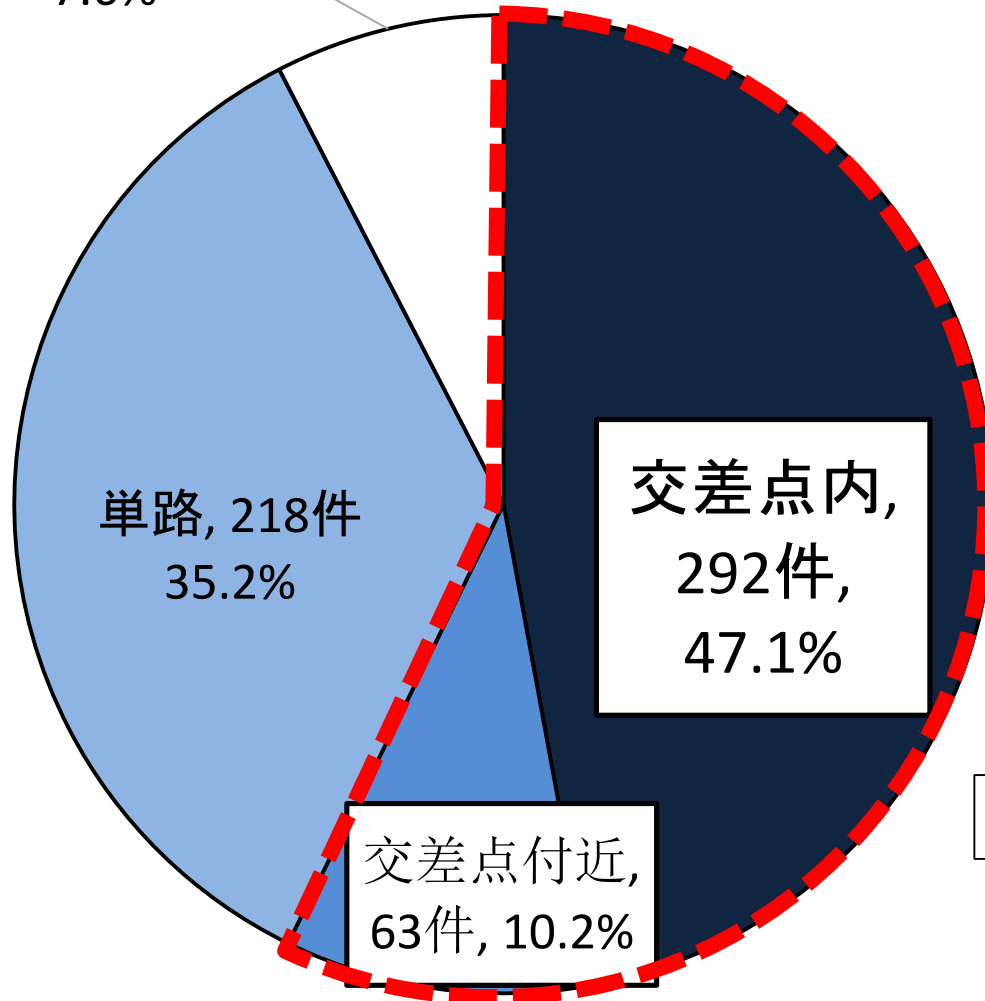


郡山地方広域消防組合「2014～2021年救急搬送データ（国表）」より

郡山市の道路形状別交通事故件数 2021年(R3)

図11

その他, 47件,
7.6%



**交差点内と
交差点付近の合計
約57% (355件)**

n=650

出典: 郡山警察署、郡山北警察署 より

データを踏まえた重点課題と重点対象

課題1 高校生の自転車事故が多い。
(データからみた課題の抽出⑤⑥より)

課題2 高齢者の事故は重傷になりやすい。
(データからみた課題の抽出⑦⑧⑨より)

課題3 交差点での事故が多い。
(データからみた課題の抽出⑩より)



重点対象：高校生、高齢者、交差点周辺

課題に対する方向性と取組（認証取得時）

課題1

高校生の
自転車事故が多い

課題2

高齢者の事故は
重症になりやすい

課題3

交差点での
事故が多い

方向性1 交通安全 意識の向上

方向性2 環境の整備

取組①

事故多発地点マップ配布

取組②

交通安全教室(S S 技法)

取組③

教材 (DVD等) 配布

取組④

高齢者向け交通安全教室

取組⑤

高齢者運転免許返納促進

取組⑥

注意看板等の設置

取組⑦

道路案内表示の改善

取組⑧

交差点の調査実施

活動指標・成果指標の再検討

重点課題①

変更前

重点課題	活動指標	短期成果指標	中期成果指標	長期成果指標
高校生の自転車事故が多い	交通事故多発地点マップ配布数	高校生の交通安全意識の変化	短期成果指標に同じ	高校生の自転車事故件数
	交通安全教室(SS技法)開催数			
	教材(SS技法DVD等)配布数			

実施が難しかった活動指標を、
実施可能な高校生の意識・行動の
変化につながる活動指標へ変更

活動指標の見直しに伴い、
短期・中期成果指標を変更
(それぞれの活動による成果を測る)

変更後

重点課題	活動指標	短期成果指標	中期成果指標	長期成果指標
高校生の自転車事故が多い	交通事故多発地点マップ配布数(学生)	高校生の事故多発地点の認知度	高校生の交通安全意識の変化	高校生の自転車事故件数
	交通事故防止及び自転車保険加入促進に向けたチラシ配布	高校生の自転車事故の危険性の認知度		
	高校生の自転車事故防止に向けた街頭啓発			

活動指標・成果指標の再検討

重点課題②

変更前

重点課題	活動指標	短期成果指標	中期成果指標	長期成果指標
高齢者の事故は重傷になりやすい	高齢者向け交通安全教室開催数	高齢者の交通安全意識の変化	短期成果指標に同じ	高齢者の交通事故件数
	高齢者の運転免許自主返納促進回数	高齢者の運転免許自主返納件数		

高齢者の夜間の事故が増加傾向にあることから、反射材配布を活動指標に追加

活動指標の追加により、短期・中期成果指標を追加・変更（それぞれの活動による成果を測る）

変更後

重点課題	活動指標	短期成果指標	中期成果指標	長期成果指標
高齢者の事故は重傷になりやすい	高齢者向け交通安全教室開催数	高齢者の交通安全意識の変化	高齢者の交通安全意識の変化	高齢者の交通事故件数
	高齢者の運転免許自主返納促進回数	高齢者の運転免許自主返納件数		
	高齢者への夜の反射材の配布数	夜光反射材を身に着けた高齢者の割合		

活動指標・成果指標の再検討

重点課題③

変更前

重点課題	活動指標	短期成果指標	中期成果指標	長期成果指標
交差点での事故が多い	注意看板等の設置数	環境を改善した交通事故多数地点数	短期成果指標に同じ	交差点での交通事故件数
	道路案内表示の改善件数			
	交差点の調査実施回数	道路管理者への改善提案数		

実施が難しい活動指標を取りやめ、重点課題①で行っていた「交通事故多発地点マップ」配布を活動に追加(企業への配布)

活動指標の見直しに伴い、短期・中期成果指標を変更(それぞれの活動による成果を測る)

変更後

重点課題	活動指標	短期成果指標	中期成果指標	長期成果指標
交差点での事故が多い	交差点の調査実施回数	道路管理者への改善提案数	提案により改善された交差点の数	交差点での交通事故件数
	交通事故多発地点マップ配布数(企業)	市民の事故多発地点の認知度	市民の交通安全意識の変化	

課題に対する方向性と取組（検討後）

課題1

高校生の
自転車事故が多い

課題2

高齢者の事故は
重症になりやすい

課題3

交差点での
事故が多い

方向性1
**交通安全
意識の向上**

方向性2
環境の整備

取組①

事故多発地点マップ配布
（高校生）

取組②

事故防止チラシ配布

取組③

自転車事故防止街頭啓発

取組④

高齢者向け交通安全教室

取組⑤

高齢者運転免許返納促進

取組⑥

高齢者への反射材配布

取組⑦

交差点の調査実施

取組⑧

事故多発地点マップ配布
（企業）

現在の取組 国・県・警察、市、地域レベル

		国・県・警察	市	地域レベル
重点課題① 高校生の 自転車事故	環境改善	道路環境の改善		通学路安全点検
	規則・罰則	交通法令・取り締まり		
	教育・啓発	悪質違反者講習	交通安全教室	通学路安全指導
重点課題② 高齢者の事故 は重傷	環境改善	道路環境の改善		見守り活動
	規則・罰則	交通法令・取り締まり		
	教育・啓発	運転免許更新時講習	交通安全教室	家庭内での声かけ
重点課題③ 交差点での事 故が多い	環境改善	道路環境の改善		危険個所の把握
	規則・罰則	交通法令・取り締まり		
	教育・啓発	運転免許更新時講習	交通安全教室	街頭啓発

交通安全対策委員会の取組 その1

重点課題

①③

方向性①

重点対象

取組

①⑧

高校生の自転車事故が多い
交差点での事故が多い

交通安全意識の向上

高校生、交差点周辺

交通事故多発地点マップの配布(高校生)
交通事故多発地点マップの配布(企業)

交通事故多発地点に注意



内容

- ・2017年に作成した「交通事故多発交差点マップ」を更新
- ・郡山警察署と連携し、2016～2019年の人身事故データを集計
- ・デザインを対策委員会で検討し、ブラッシュアップ

実績

- ・1,000部作成し、市内小・中・高校、養護学校、企業等へ配布
- ・市内の高校(3校)と1企業へアンケートを実施し、マップを見たことによる高校生、市民の意識と行動の変化を把握

交通安全対策委員会の取組 その1

重点課題①

方向性①

重点対象

取組②

高校生の自転車事故が多い

交通安全意識の向上

高校生

交通事故防止及び自転車保険加入に向けた
チラシの配布

内容

- ・市内高校生の自転車事故の現状や、自転車乗車時のルール、自転車保険加入の重要性などを掲載
- ・高校生に自転車事故の危険度を周知

実績

- ・13,000部作成し、市内小・中・高校へ配布
- ・市内の高校(3校)にアンケートを実施
- ・高校生の認知度を把握

自転車事故の加害者とならないために

発行：郡山市セーフコミュニティ推進協議会「交通安全対策委員会」

郡山市は、けがや事故をデータから分析し、その原因を見つけ出し、必要な対策を行うことでけがや事故を減少させる「セーフコミュニティ活動」に取り組んでいます。

私たち、郡山市セーフコミュニティ推進協議会「交通安全対策委員会」では、高校生の皆さんの自転車事故を減少させるため、様々な取り組みを行っています。

1 郡山市内における高校生の自転車事故

男女別事故割合 男子学年別事故割合 女子学年別事故割合

男女別割合は、男子生徒の事故が56%、女子生徒の事故が44%を占め、男子生徒の事故の方が女子生徒の事故より12%多いことが分かりました。

また、学年別事故割合は男女とも1学年の生徒の割合が最も多く、次いで3学年、2学年の順となっています。特に1学年の生徒は、自転車通学に慣れていないことから、入学して間もない4月から6月にかけて事故が多いことも分っています。

2 事故を起こさないためにも心がけましょう

自転車は、とても身近で便利な乗り物です。しかし、交通ルールを守らなかったり、誤った乗り方をすると大きな事故につながります。

事故を起こさないためにも、もう一度、自分の運転を振り返るとともに交通ルールを守り、安全運転心がけましょう。

信号無視をしない スピードを出し過ぎない 自転車に乗らずに走り過ぎない スマートフォンを操作しない 音楽を聴かない

3 甘い考えないで！自転車の交通事故

自転車事故とはいえ、被害の大きさによっては数千円もの賠償金の支払いを命じられるケースもあります。下表は、実際にあった未成年者が起こした自転車による加害事故の例です。

事故は、いつ、どこで起こるかわかりません。
決して「自分は大丈夫!」と思わず、安全運転心がけましょう。

賠償額	事故の概要
9,521万円	男子小学生(11歳)が夜間、帰宅途中に歩道と車道の区別のない道路において歩行中の女性(62歳)と衝突。女性は頸蓋骨折等の傷害を負い、植物状態となって意識が戻らない状態になる。 ◆神戸地方裁判所：平成25年7月4日判決
9,330万円	男子高校生が夜間、イヤホンで音楽を聞きながら無灯火で自転車を運転中に、歩行者の道路を受けて逃走し、職務質問中の警察官(25歳)と衝突。警察官は、頸蓋骨折等で約2か月後に死亡。 ◆高松高等裁判所：令和2年7月22日判決
9,266万円	男子高校生が昼間、対向車線を自転車で直進してきた男性会社員(24歳)と正面衝突。男性会社員に言語機能の喪失が残る。 ◆東京地方裁判所：平成20年6月5日判決
6,779万円	男性が夕刻、片手運転で下り坂を高速で走行し交差点に入ると、横断歩道を横断中の女性(38歳)と衝突。女性は頭蓋骨で3日後に死亡。 ◆東京地方裁判所：平成15年9月30日判決
5,438万円	男性が昼間、信号無視をして高速で交差点に入ると、青信号で横断歩道を横断中の女性(55歳)と衝突。女性は頭蓋内損傷で11日後に死亡。 ◆東京地方裁判所：平成19年4月11日判決

保護者の皆様へ 出典：一般社団法人 日本損害保険協会

「令和4年4月1日から自転車保険等への加入義務化」

福島県では「福島県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例(令和3年10月12日福島県条例第77号)」において、令和4(2022)年4月1日から、自転車利用者には自転車損害賠償責任保険等への加入が義務付けられました。

自転車を利用する方は、必ず自転車の保険に加入しましょう。

詳しくはこちら

自転車事故による死傷者

6万6137人(全国)

死傷者の約4割が若者と子ども

59.3% 40.1%

年齢別(令和2年中の交通事故の発生状況)

30歳以下 31歳以上

セーフコミュニティの情報は 郡山市 セーフコミュニティ 検索

発行：郡山市セーフコミュニティ推進協議会「交通安全対策委員会」
事務局：郡山市 市民部 セーフコミュニティ課 交通防犯係
電話 024-924-2151 FAX 024-921-1340

UD FRONT

交通安全対策委員会の取組 その1

取組①

アンケートの実施

取組②

高校生の行動や意識は変わったか



写真: アンケート協力校(郡山東高校)の昇降口

生徒対象用 【セーフコミュニティ交通安全対策委員会】
交通事故防止に関するアンケートにご協力ください

郡山市では、けがや事故のない安全・安心なまちづくり セーフコミュニティ※を推進しています。
その対策の1つである「交通安全対策」については、高校生の自転車による交通事故防止のため、「交通事故多発地点マップ」や「自転車事故防止及び自転車保険加入促進に向けたチラシ」を作成し、各学校に配布しました。
自転車を運転する皆さんの現状と、校内に掲示された「マップ」や「チラシ」をご覧になった感想などを伺い、今後の活動と対策の改善に役立てたいと思いますので、ぜひアンケートにご協力ください。

★アンケートは簡単電子申請で回答をお願いします。
アンケート締切日: 令和3年9月13日(月)

「郡山市かんたん電子申請システム」によるアンケート
URL: <https://www.task-asp.net/cu/eg/1ar072036.task?app=202100297>

★マップやチラシは、校内に掲示しております。



交通事故多発地点マップ 自転車事故防止啓発チラシ(表)

※セーフコミュニティとは・・・
セーフコミュニティとは、「けがや事故は、原因を究明することで予防できる」という理念のもと、市民の皆さんと行政や関係機関、団体、組織等が協働で安全・安心に暮らすことができるまちづくりを取り組む地域のことです。
郡山市は2018年2月に国際認証と取得し、2023年の再認証に向けて活動を継続しています。



QRコード
生徒は携帯から回答

高校の昇降口に
「交通事故多発地点マップ」
「自転車事故防止及び
自転車保険加入促進に向
けたチラシ」を掲示

効果検証のため、インター
ネットによるアンケートを
実施

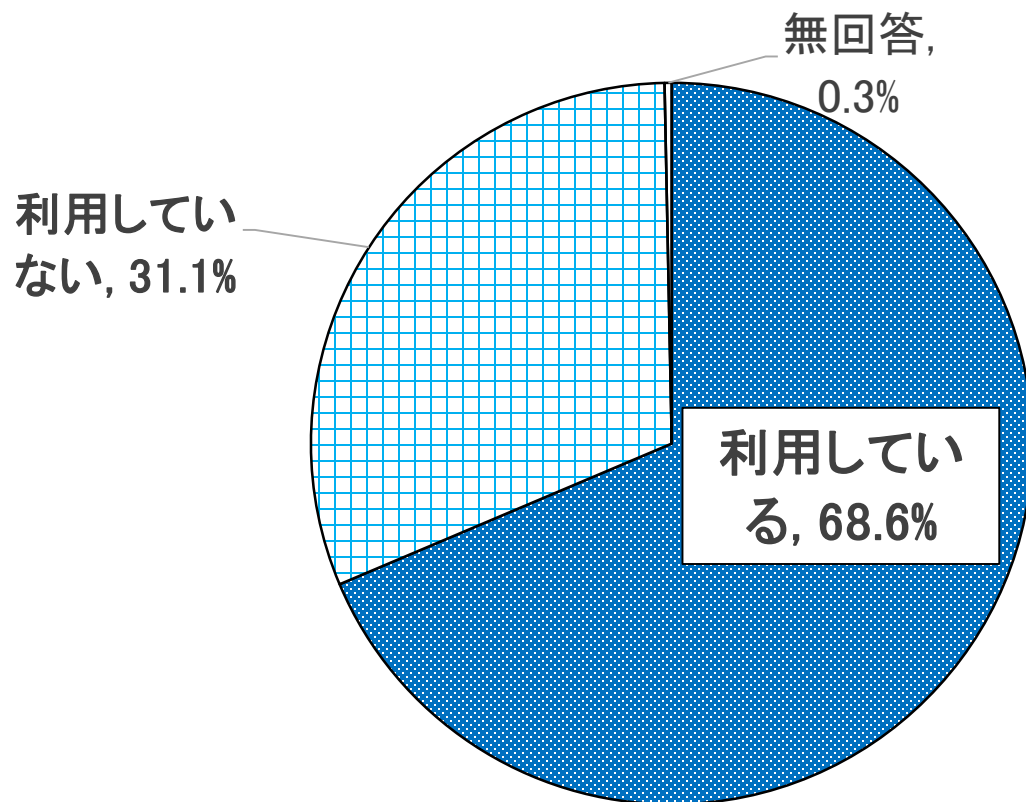
- アンケート協力校
- ・郡山東高校
 - ・郡山商業高校
 - ・日大東北高校

交通安全対策委員会の取組①②による成果

アンケート結果 その1 自転車利用について

図12

回答者 郡山市内に通学している高校生(3校・1,568名)



1,568名のうち約7割(1,076名)の生徒が自転車を利用している

出典：交通安全対策委員会「交通事故防止に関するアンケート(高校生)2022」

交通安全対策委員会の取組①②による成果

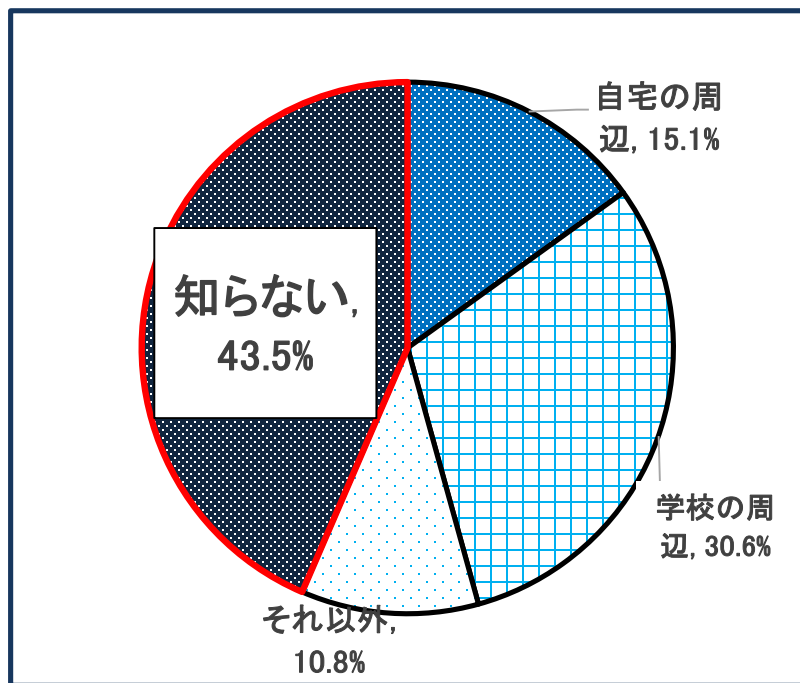
アンケート結果 その2 交通事故への認識について

高校生の行動や意識は変わったか

図13

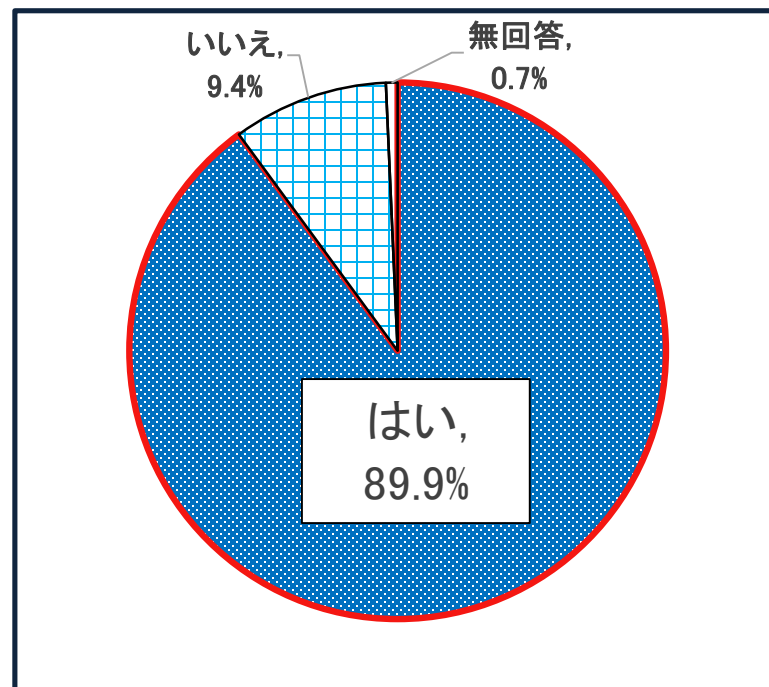
マップを見た生徒の約9割が、事故の多い交差点を理解した。

事故多発地点マップを見る前



Q. 事故が多く発生している場所で知っているところを選択してください。

事故多発地点マップを見た後



Q. 「交通事故多発地点マップ」を見て、事故が多い交差点を理解できましたか。

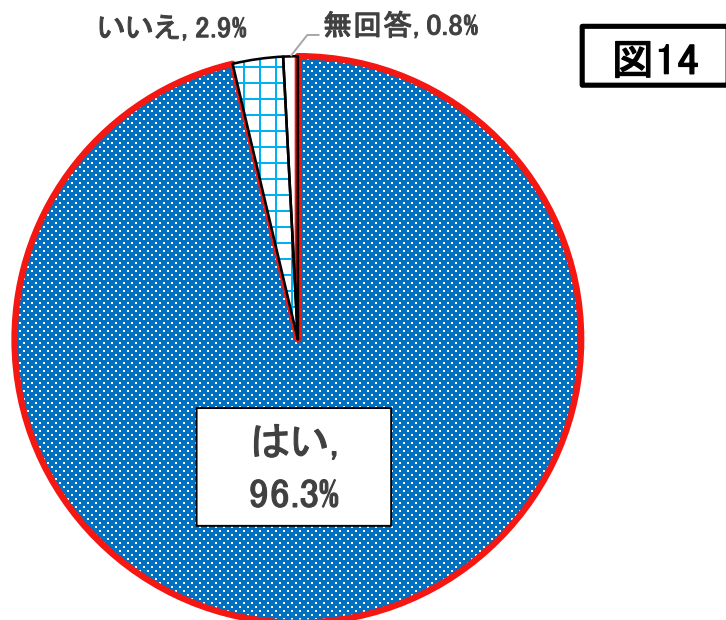
交通安全対策委員会の取組①②による成果

高校生の行動や意識は変わったか

アンケート結果 その3

自転車事故の危険性の認識について

Q. チラシを見て、自転車事故の危険性について理解できましたか。

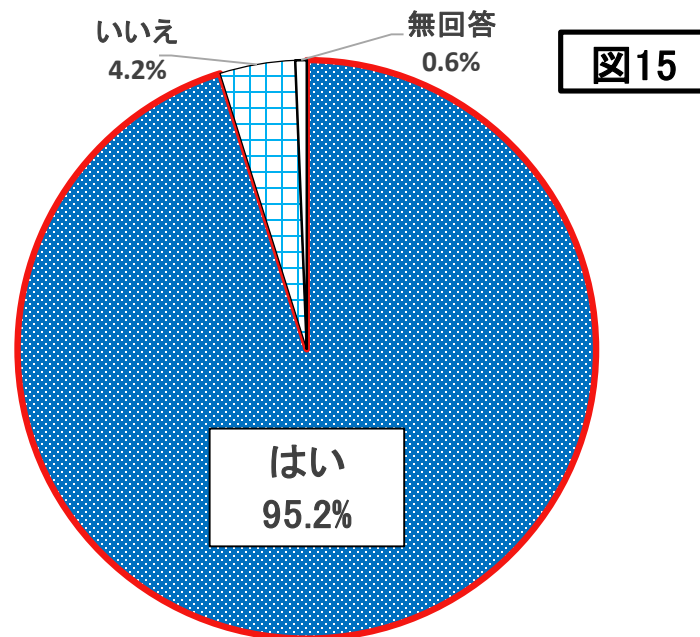


チラシを見た生徒の約9割が、自転車事故の危険性の認識が高まった。

アンケート結果 その4

交通安全に対する意識の変化について

Q. 事故が多い交差点を知ることによって、自身の交通安全に対する意識は高まりましたか。



マップを見た生徒の約9割が、交通安全に対する意識が高まった。

交通安全対策委員会の取組 その1

重点課題①

高校生の自転車事故が多い

方向性①

交通安全意識の向上

重点対象

高校生

取組③

高校生の自転車事故防止に向けた街頭啓発

内容

- ・交通安全運動期間中に、警察や企業と連携し、**自転車通学の高校生を対象とした街頭啓発を実施**
- ・自転車の安全運転の指導や、事故予防啓発チラシの配布



参加団体

- ・交通安全対策委員会
- ・警察
- ・郡山地区交通安全協会
- ・郡山市と包括連携協定を締結している保険会社5社
- ・郡山市

活動実績と評価

重点課題① 高校生の自転車事故が多い

	指標内容 【測定方法】	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動実績	交通事故多発地点マップ配布数(学生)	枚	1,245	940	—	194	25
	交通事故防止及び自転車保険加入促進に向けたチラシの配布 新規	枚	—	12,550	12,400	12,300	12,200
	高校生の自転車事故防止に向けた街頭啓発 新規	回	—	—	—	1	1
短期成果指標	高校生の事故多発地点の認知度 新規	%	—	—	—	—	84.5
	高校生の自転車事故の危険性の認知度 新規	%	—	—	—	—	95.5
中期成果指標	高校生の交通安全意識の変化	%	—	—	—	—	93.8
長期成果指標	高校生の交通事故件数	人	60	44	48	24	24

交通安全対策委員会の取組 その2

重点課題②

高齢者の事故は重傷になりやすい

方向性①

交通安全意識の向上

対象

高齢者

取組④

高齢者向け交通安全教室の開催



内容

・警察と連携し、高齢者団体を対象とした交通安全教室を開催

実績

2017年 9回

2018年 10回

2019年 8回

2020年 0回(コロナ禍のため)

2021年 0回(コロナ禍のため)

※教室の主催者から参加者に対象を変えてアンケートを実施予定

交通安全対策委員会の取組 その2

重点課題②

方向性①

対象

取組⑤

高齢者の事故は重傷になりやすい

交通安全意識の向上

高齢者

高齢者の運転免許証自主返納の促進

内容

・運転免許証自主返納制度の概要と交通安全教室の申込内容を記載した啓発チラシを対策委員会で検討し作成

実績

・13,000部作成
・老人クラブを通じて高齢者へ配布

高年齢者の皆さん! 交通事故に気をつけましょう

発行 〇郡山市セーフコミュニティ推進協議会「交通安全対策委員会」

使って“あんしん”反射材
ぜひ反射材を
活用しましょう!

歩行者の存在を積極的にドライバーに知らせることが有効です。夕暮れ時から明け方にかけては、ぜひ反射材を活用しましょう!
※横断歩道の利用など、交通ルールを守りましょう!

歩行中の事故に注意!

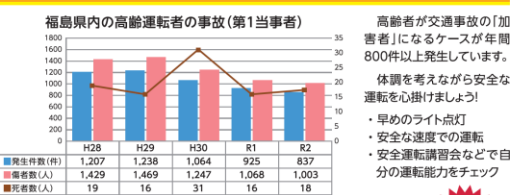
福島県内の高齢者の交通事故の内訳は「歩行中」が全体の42%であり、時間帯は75%が夜間です。

高齢者の交通事故 状態別死者数割合
 歩行者 42%
 自転車乗車者 29%
 自動車乗車者 11%
 乗客 7%
 乗員 1%

高齢歩行者の昼夜別死亡事故割合
 昼間 25%
 夜間 75%

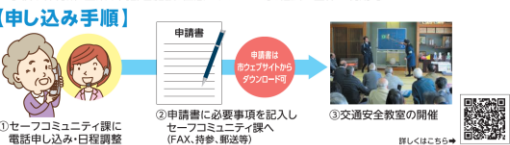
「令和4年4月1日から自転車保険等への加入義務化」
 福島県では「福島県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例(令和3年10月12日福島県条例第77号)」において、令和4(2022)年4月1日から、自転車利用者は自転車損害賠償責任保険等への加入が義務付けられました。
 自転車を利用する方は、必ず自転車の保険に加入しましょう。

高齢ドライバーが安心して運転するには



交通安全教室の申し込みを受け付けています 無料

郡山市では、交通安全教育専門員による交通安全教室の講師を無料で派遣しています。お気軽にセーフコミュニティ課(電話024-924-2151)までお問い合わせください。
 ※学校や保育所、企業や高齢者施設、任意のグループ等、幅広い団体に利用可



ご自身や家族の方が運転に不安を感じたら

高齢者運転免許証返納推進事業

免許証を返納された方には**バス・タクシー利用券を交付**します。
【対象者】75歳以上の郡山市民で運転免許証の全てを返納した方
 ※返納時に75歳以上の方が対象です。※失効された方は対象なりません。
【申請期間】警察署又は運転免許センターへ免許証を返納した日から1年間
 ※返納した時に「取消通知書」の交付を受けてください。
【内容】5,000円分(500円券×10枚綴り)のバス・タクシー利用券の交付
 ※お一人様1回限り。有効期限は1年間、本人のみ利用可能。

発行 〇郡山市セーフコミュニティ推進協議会「交通安全対策委員会」
 事務局 郡山市 市民部 セーフコミュニティ課 交通防犯係
 電話 024-924-2151 FAX 024-921-1340

交通安全対策委員会の取組 その2

運転免許証自主返納者が増えることで期待される効果

- ・ 不安を感じながら自動車を運転する高齢ドライバーが減少することで、交通事故の減少につながる。
- ・ 運転免許証返納者の家族の安心感が増す。
- ・ 高齢者同士が自主返納について考える契機となる。

その結果・・・

高齢者(75歳以上)の運転免許証自主返納者

【2017(H29)8/1から2022(R3)/8/31の累計】 3,726名

うちバス・タクシー利用券交付者

【2017(H29)8/1から2022(R3)/8/31の累計】 3,254名



交通安全対策委員会の取組 その2

重点課題②

方向性①

対象

取組⑥

高齢者の事故は重傷になりやすい

交通安全意識の向上

高齢者

高齢者への夜光反射材の配布



【セーフコミュニティ交通安全対策委員会】
交通事故防止に関するアンケート

このアンケートは、ケガや事故のない安全・安心なまちづくり（セーフコミュニティ）を推進する「交通安全対策委員会」が、高齢者の皆様の交通事故防止を啓発するため実施するものです。
今後の、交通事故防止策の更なる充実のために、皆様の率直な御意見や御感想をお聞かせください。

◆年齢 () 才

問1：福島県内の高齢者の交通事故は、「歩行中」が全体の約4割、昼間より夜間が多いことをご存じですか。
1 知っていた 2 知らなかった

問2：反射材を身につけることは、夜間において自分の存在を運転手に知らせることに有効であることをご存じですか。
1 知っていた 2 知らなかった

問3：今まで反射材を活用したことはありますか。
1 ある (問5へ) 2 ない (問4へ) 3 分からない (問4へ)

問4：高齢者の事故の起こりうる状況 (問1) を知って、これから反射材を活用しようと思いませんか。
1 思う 2 思わない 3 分からない

問5：啓発チラシやアンケートをうけて、交通安全に対する意識が高まりましたか。
1 はい 2 いいえ

問6：交通安全に関してご意見等があれば御記入ください。

～アンケートへの御協力ありがとうございました～

内容

・いきいき百歳体操を受講する
高齢者を対象に、反射材と高
齢者向けの交通安全啓発チラ
シを配布
(高齢者の対策委員会と連携)

実績

・2022年5月 体操受講者35名
・その場で高齢者の行動や意
識の変化を把握するためアン
ケートを実施
(高齢者対象のアンケートは
紙で実施)

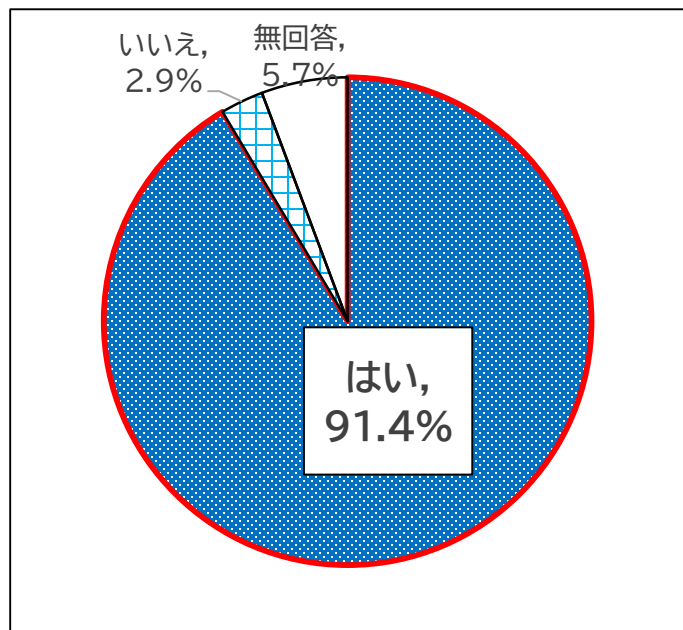
交通安全対策委員会の取組⑤⑥による成果

取組⑤ アンケートの実施

高齢者の行動や意識は変わったか

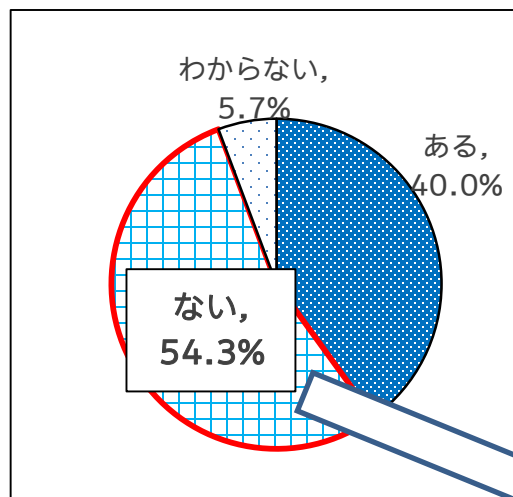
図16

アンケート結果 その1 交通事故への認識について

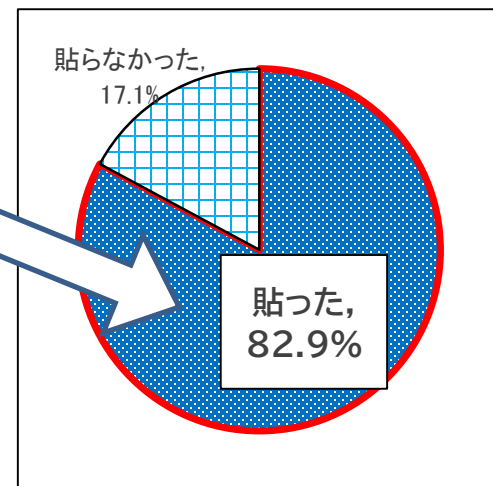


Q. 啓発チラシやアンケートをうけて、交通安全の意識は高まりましたか。

アンケート結果 その2 反射材の着用について



Q. 反射材を活用したことがありますか。



Q. もらった反射材を貼りましたか。

出典：交通安全対策委員会「交通事故防止に関するアンケート(高齢者)2022」

活動実績と評価

重点課題② 高齢者の事故は重傷になりやすい

	指標内容 【測定方法】	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動実績	高齢者向け交通安全教室開催数	回	9	10	8	0	0
	高齢者の運転免許自主返納促進回数 (チラシ配布枚数)	枚	—	13,000	13,000	13,000	13,000
	高齢者への夜光反射材の配布数 新規	枚	—	—	—	—	18
短期成果指標	高齢者の交通安全意識の変化	%	—	—	—	—	100
	高齢者の運転免許自主返納件数	人	359	856	1,197	1,073	1,024
	夜光反射材を身に着けた高齢者の割合 新規	%	—	—	—	—	88
中期成果指標	高齢者の交通安全意識の変化	%	—	—	—	—	100
長期成果指標	高齢者の交通事故件数(交通白書等)	件	229	198	200	155	143

交通安全対策委員会の取組 その3

重点課題③

方向性②

対象

取組⑦

交差点の事故が多い

環境の整備

交差点周辺

交差点の調査実施

内容

・交通事故多発地点マップにおける事故の多い2交差点の調査を実施し、**改善案を道路管理者へ提言**

実績

・北田交差点と針生西交差点において提言に基づき**修繕工事が実施された**

北田交差点



(改善前)

ななめ交差点のため見通しが悪い
〈提言〉見通しの悪いところにラバーポールを設置



(改善後)

歩道部各所にラバーポールを設置

針生西交差点



(改善前)

右折車両の動線が分かりづらい
〈提言〉右折車の誘導線の設置



(改善後)

右折車両の誘導線を設置

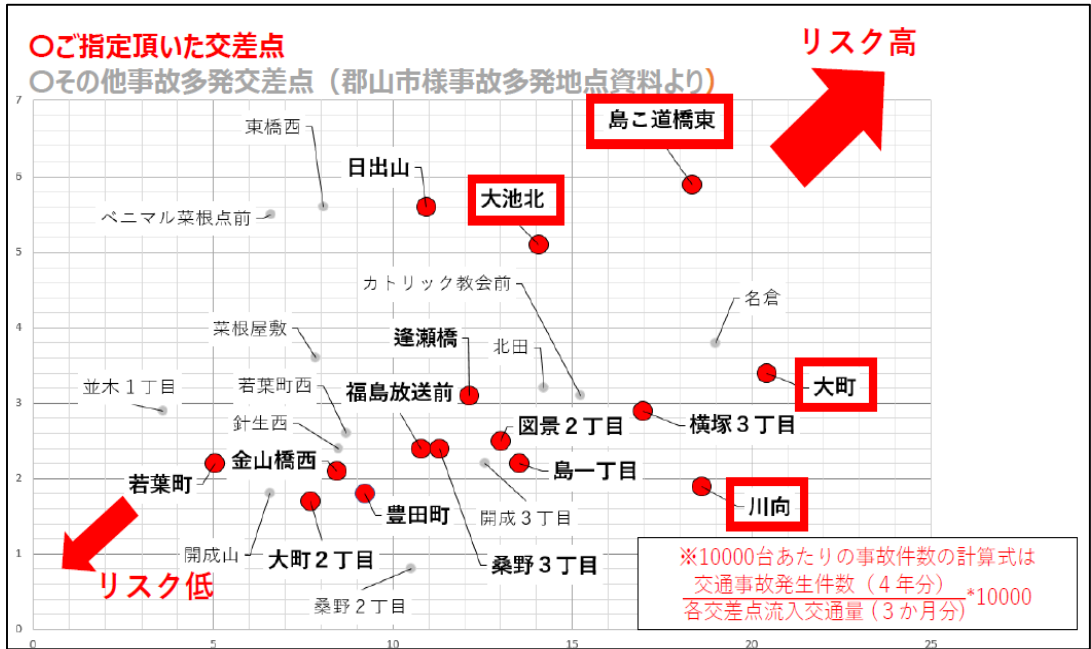
活動実績と評価

重点課題③ 交差点での事故が多い

	指標内容 【測定方法】	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動実績	交差点の調査実施箇所	箇所	5	—	—	—	2
	交通事故多発地点マップ配布数(企業) 新規	枚	—	—	—	—	2
短期成果指標	道路管理者への改善提案数	箇所	—	—	—	—	2
	市民の事故多発地点の認知度 新規	%	—	—	—	—	90
中期成果指標	提案により改善された交差点の数	箇所	—	—	—	—	2
	市民の交通安全意識の変化 新規	%	—	—	—	—	100
長期成果指標	交差点での交通事故件数(交通白書等)	件	680	583	594	405	355

新たな取組について(トヨタ自動車との連携)

- ・2021年7月より交通事故削減に向けてトヨタ自動車(株)と郡山市は連携を開始
- ・交通事故多発地点マップの中で、リスクの高い4つの交差点をピックアップ
- ・ビッグデータを活用して事故要因を分析し、対策を検討



→ 郡山市が調査依頼した事故多発交差点

→ 依頼した交差点のうち、よりリスクが高いとされた交差点

郡山市のもつ事故データとトヨタ自動車(株)のもつ車両ビッグデータからリスクの高い交差点を見える化し、よりリスクの高い4つの交差点の事故要因について分析することとした

新たな取組について(トヨタ自動車との連携)

- ・リスク高の4交差点について、トヨタ自動車(株)と交通安全対策委員会と合同で交差点の現地調査を実施



大池北交差点



川向交差点



大町交差点



島こ道橋交差点

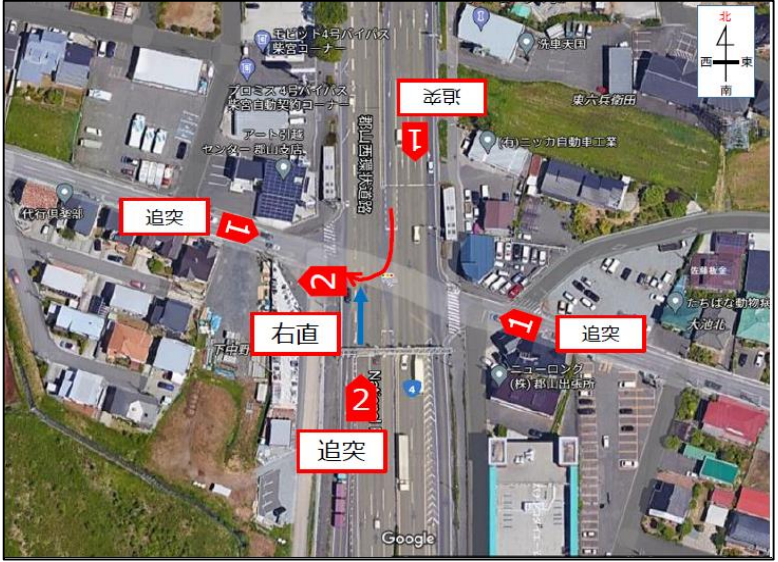
実際の事故多発交差点の現状(道路の形状や交差点を走行する車両の渋滞・滞留の様子)と、各交差点で発生した事故の形態詳細及びトヨタ自動車(株)のビッグデータを照合することで、より確実な事故要因を分析することができた

新たな取組について(トヨタ自動車との連携)

・現地調査の結果等を踏まえ、各交差点の事故削減に向けた対策を検討

(例)大池北交差点

《現地調査より》一旦登り、下り坂となる先に交差点があるような道路形状(蒲鉾型)



《事故形態詳細より》

- ・下り勾配の北進で追突が多い
⇒道路形状(蒲鉾型)との関係が示唆される
- ・出会い頭の事故多い
⇒市道から国道への右折車滞留が原因

《各種データより》

- ・交通量に対する急ブレーキの量を計算
⇒明らかに北進車の急ブレーキ率が高い
⇒追突及び右折車×直進車の衝突事故のリスクが高い

《対策》

- ・蒲鉾型形状道路のため、前方見通しへの対策を検討
- ・交差点内の滞留右折車を流すため、市道側の信号の秒数を変更
⇒黄色信号を延長した場合の交通流変化をシミュレーションする

現在の到達点と今後の方向性

重点課題	現在の到達点	今後の方向性
課題1 高校生の自転車事故が多い	<ul style="list-style-type: none">・交通事故多発地点マップの更新・啓発チラシの更新・街頭啓発活動の実施	<ul style="list-style-type: none">・交通事故多発地点マップの事故状況調査と検証・成果の検証
課題2 高齢者の事故は重傷になりやすい	<ul style="list-style-type: none">・交通安全教室の開催・運転免許証自主返納の促進・反射材の配布	<ul style="list-style-type: none">・交通安全教室及び免許証自主返納制度の周知啓発・反射材活用促進のための啓発活動
課題3 交差点での事故が多い	<ul style="list-style-type: none">・交差点調査の実施・交差点事故原因の分析・道路環境改善	<ul style="list-style-type: none">・調査結果を道路の環境改善の検討へ繋げていく

御清聴ありがとうございました

